



～韓国からコウノトリ野生復帰を視察～  
韓国の「コウノトリ初放鳥の地」「忠清南道禮山郡」の郡守來訪

5月26日、韓国でコウノト  
リの野生復帰に取り組む忠清  
南道禮山郡から、黄全奉郡守  
をはじめとする視察団が来訪  
しました。本市と禮山郡は、平  
成25年に「コウノトリ野生復  
帰に関する友好交流合意」を  
締結しています。

同団は、県立コウノトリの郷公園やコウノトリ文化館で、コウノトリの保護増殖の説明を受けた他、ラムサール

条約湿地であるハチゴロウの戸島湿地で、湿地生態系保全の取組みを視察。その後、本庁舎で中貝市長と会談しました。会談で、黄郡守は「豊岡からは、学ぶことが多い」と話し、市長は「コウノトリは、さまざまされることを教えてくれる。たくさん学んでほしい」とエールを送りました。コウノトリがつなぐ日韓の架け橋は、これからも広がり続けます。



▲滞在中に気付いた日本の文化的要素を日本語劇で発表するビクトリア大学生ら



▲コウノトリ文化館を視察する黄郡守(左から  
3人目)ら

「ビクトリア大学の学生が芸術文化で国際交流」  
「ドラマテック」「ミニアティ・日本語」「ミニアーション講座」開催

で、城崎国際アートセンターで、カナダのピクトリア大学の学生との国際文化交流を図る「ドラマティックコミュニケーション」..日本語コミュニケーション講座を開催しました。講師は、同大学准教授の野呂博子さんと本市芸術文化参与の平田オリザさん。同大学で日本語を学ぶ7人の学生がコミュニケーション教育推進事業モデル校の三方小学校で

国際ミニユニケーション教育  
を小学生と一緒に受けたり、  
城崎温泉の旅館での就業体験  
や市内各所でホームステイな  
どを行いました。また、滞在  
中に気付いた日本の文化的要  
素をドラマ化した日本語劇を  
創作し、最終日に成果を発表  
しました。今後、この事業は、  
他の海外の大学にも参加を促  
し、大学の単位取得可能な学  
習プログラムとしての実施を  
目指します。

5月20日は、日本の野外で43年ぶりにひながかえったのと同じ日です。豊岡はその日を「生きもの共生の日」という記念日にしています。

韓国では 1997年には  
アのオスが撃ち殺されて事実  
上絶滅したとされています。  
野外でのひな誕生は、少なく  
とも45年ぶりの快挙です。

昨年韓国イエサン郡で放鳥された8羽のコウノトリから1組のカップルができて、今年の5月20日、2羽のひなが誕生しました。

中貝市長の徒然日記

ちこち連絡して搜していただ  
いたことに感謝しています。

韓国で放鳥された1羽が、  
昨年11月26日、沖永良部島に  
飛来した、との情報が入つて  
きました。ぼくたちは色めき  
興奮し、島の町当局に連絡して  
行方を捜していただくよう

イジとバアバ）4羽のうち3羽は、コウノトリの郷公園から韓国に贈られた鳥でした。こんな会話もありました。

ファン郡守「韓国から日本まで飛んでいった鳥が死んだのは残念なことでした。でもその際に、豊岡の人たちがあ

んだのではなく、生きる希望の中で死んだのだと思いません。それがせめてものことでした。沖永良部の人々には自らを責めないでくださいと話しています」。

ファン「私も、悲しむより韓国の鳥が日本まで飛んだことを喜びたいと思います」。

友あり遠方より来る、です